

題名:「早期落水は厳禁！刈取り準備はお早めに」

内容:

●8月後半になっても未だに最高気温が30℃を超える日が続いております。仙台管区气象台の1か月予報(8月21日発表)によると、今後も高温で経過することが予想されています。

酒田農業技術普及課診断圃の穂揃い期調査では、穂数は平年並みからやや少なめ、㎡(平方メートル)当たり粒数は多い見込みとなっております(暫定値)。粒数が多い圃場では稲体の消耗による品質低下と、【早期落水】による登熟不良(屑米の増加)・胴割粒や白未熟粒の多発が懸念されます。引き続き水管理を徹底しましょう。

《出穂後の水管理》

出穂後～20日:くぼみ、作溝に水が残っている程度(飽水管理)

21日～30日:足を入れて、かかとの部分に水がにじみ出る程度

31日以降 :黒乾亀裂(一部ひびが入る程度)※刈取り間近になったら、作業に支障がない程度まで乾かす

●フェーン現象(高温・強風・低湿度)で稲体の消耗が大きくなります。事前に湛水を始め、一時的に湛水を行って水分の補給をし、稲体を保護しましょう。

●フェーン現象が解消するまでは湛水管理を行い、解消したら通常の水管理とし、圃場の温度低下に努めましょう。

●今後も天気予報を活用し、台風及び、フェーン現象の発生に注意しましょう。

※水管理においては地域全体に水を行き渡らせることを最優先に考え、限られた水資源を大事にし、みんなが有効活用できるよう努めましょう。土地改良区の水利使用規則、ならびに地区の配水(番水)計画などのルールは必ず守りましょう。

●出穂が早く、その後も高温で経過しているため、刈取適期は平年より早くなる見込みです。焦って秋作業に入ることをしないよう、機械等の準備を実施しましょう。